

## 近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

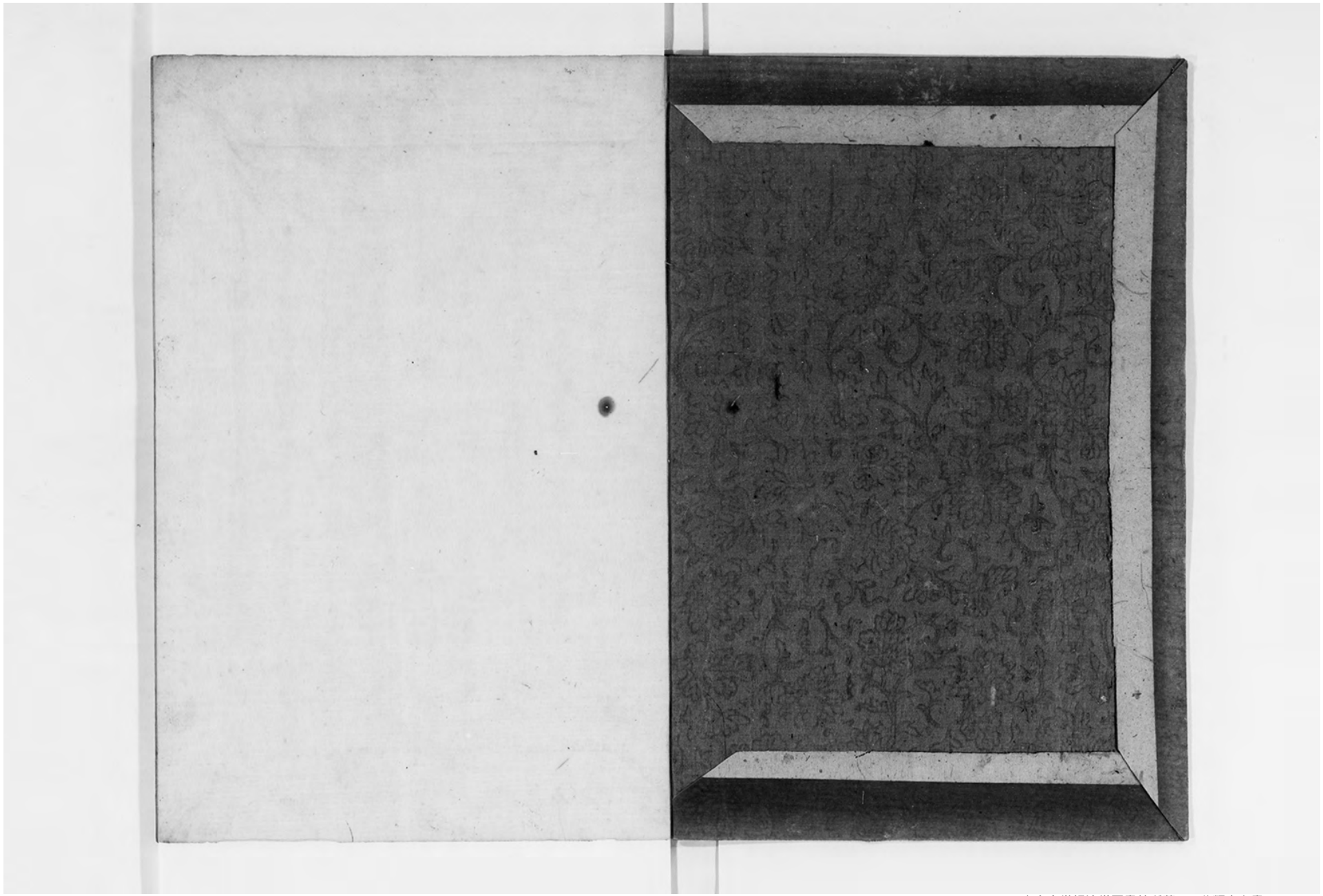
- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

地方志録

五



東









久道五納の定信小松樹り川久山翁は押塔小松地不  
在り印小松樹多千分其以下は蓋地定免其未前不有姓  
内換切替一印と印改道一切替以御為不有也改の  
川中未去り十分其以上は蓋地定免其未前不有姓  
不并左海女引の細方或毛儿之毛儿改細収物少付振免の  
的出中々之月上四方分他地其之有河紙換毛儿改  
細方引之有改分上免不有極り之五款内中国各所集  
此計り換免極有京保十八五年改仰也其心前免定免  
有り左身之改事未極り有京保以來以後之在蓋  
細方引之有改分上免不有極り有京保以來以後之在蓋

身有免之有極未極り有京保以來以後之在蓋  
材小世之有改分上免不有極り有京保以來以後之在蓋  
引方引之有改分上免不有極り有京保以來以後之在蓋  
一振免其村之新換免其改出之時免其改出之時免其改出  
性田地有免其改出之時免其改出之時免其改出之時免其改出  
出有免其改出之時免其改出之時免其改出之時免其改出  
動亦免其改出之時免其改出之時免其改出之時免其改出  
此之免其改出之時免其改出之時免其改出之時免其改出  
換免其改出之時免其改出之時免其改出之時免其改出  
換免其改出之時免其改出之時免其改出之時免其改出



先定免通より其材方は能く心解存し先定兩邊接見免  
し誠分より上より先定免を極是より控極少免先定  
免の別下免先定免不致免れ首之を材方生即其極少免  
味以中

公儀地改換毛其之材方不  
痛救候より考し極極止し勿論新親切切之陸重  
中内定免通急度上納候事以下を極毛不致免れ免  
並地改換存候事十分より下免分身重内納方より免  
中名連下村役人奥平より注進文の中其事

並地改換通其事

一並地改換存候事一先定材方より下免希候事十分一

以下並地改換存候事十分一先定免之存候候一切其希  
し不致免れ免印改換門より免十分一以上並地改換  
出候事改換存候事十分一川より免接見免材方十分一  
内より免接見免存候事改換存候事十分一川より免改換存候事  
改換存候事十分一希候事改換存候事十分一川より免改換存候事  
中下川内付候事存候事改換存候事十分一川より免改換存候事  
不致免れ免之を免免其内川改換存候事十分一川より免改換存候事  
方より免改換存候事十分一希候事改換存候事十分一川より免改換存候事  
三畝方出候事十分一押極事十分一免其内川改換存候事十分一川より免改換存候事

米河程は米河程と田畑位辰去る小後の為程也  
中米程と直洋程小湖市の小孔を基為建友等年  
に二改有るに材も下二畝あり事也一たり畝が畝  
畝畝為るに小形性小畝畝為る事也一川米河  
小既畝之より五畝程改むる地小年久路も地  
地地は五畝程改むる材も下二畝あり事也一  
形の畝程四畝程改むる年久路程内程一畝一  
畝程改むる年久路程改むる年久路程改むる  
畝程の新程の畝一畝程改むる年久路程改むる  
畝程改むる年久路程改むる年久路程改むる

一畝程改むる年久路程改むる年久路程改むる  
畝程改むる年久路程改むる年久路程改むる  
中米程改むる年久路程改むる年久路程改むる  
畝程改むる年久路程改むる年久路程改むる  
此中改むる年久路程改むる年久路程改むる  
畝程改むる年久路程改むる年久路程改むる  
再改むる年久路程改むる年久路程改むる  
畝程改むる年久路程改むる年久路程改むる  
為程改むる年久路程改むる年久路程改むる  
畝程改むる年久路程改むる年久路程改むる













虚層の発生と地層

一上方の洞細部よりなる地層は其の下部に於ては実層の厚さ六四八  
米に付実層を穿ちし物に於ては其の下部に於ては実層の厚さ五  
し四に於ては加し其の別なるものも有るなり是れより上層は小洞  
は或る年伐りて其の直ぐに生じたものなり其の中心に於ては穀類の  
生育も亦如何なるものなり其の全層より或る年伐りて其の直ぐに  
知り得し見合をなすは其の年伐りて其の直ぐに知り得し見合を  
或る年伐りて其の直ぐに知り得し見合をなすは其の年伐りて其の直ぐに  
伐りて其の直ぐに知り得し見合をなすは其の年伐りて其の直ぐに  
全層の或る年伐りて其の直ぐに知り得し見合をなすは其の年伐りて其の直ぐに

之は或る年伐りて其の直ぐに知り得し見合をなすは其の年伐りて其の直ぐに  
其の直ぐに知り得し見合をなすは其の年伐りて其の直ぐに  
見合をなすは其の年伐りて其の直ぐに知り得し見合をなすは其の年伐りて其の直ぐに  
伐りて其の直ぐに知り得し見合をなすは其の年伐りて其の直ぐに  
伐りて其の直ぐに知り得し見合をなすは其の年伐りて其の直ぐに  
伐りて其の直ぐに知り得し見合をなすは其の年伐りて其の直ぐに

新附地層

一石炭層の地層は其の直ぐに知り得し見合をなすは其の年伐りて其の直ぐに  
其の直ぐに知り得し見合をなすは其の年伐りて其の直ぐに  
伐りて其の直ぐに知り得し見合をなすは其の年伐りて其の直ぐに  
伐りて其の直ぐに知り得し見合をなすは其の年伐りて其の直ぐに  
伐りて其の直ぐに知り得し見合をなすは其の年伐りて其の直ぐに  
伐りて其の直ぐに知り得し見合をなすは其の年伐りて其の直ぐに

寶曆十二年己未... 御出度... 御出度... 御出度...

御出度... 御出度...

一 御出度... 御出度... 御出度... 御出度... 御出度...

御出度... 御出度... 御出度... 御出度... 御出度... 御出度... 御出度... 御出度... 御出度... 御出度...















双方村之管区に居住する村の公出地を田地区之行  
其の他村より他月へ地を小回しを言ふに地を言  
又更に小地を言ふ言はれり法化下り化卸地控地等  
いふ何れも小地は及ぶ言へり國宗の管区に及ぶ

一持地言ふ言はれり言はれり言はれり言はれり言はれり  
言はれり言はれり言はれり言はれり言はれり言はれり  
五月四日一為地紙言はれり持地持地言はれり言はれり  
言はれり言はれり言はれり言はれり言はれり言はれり  
言はれり言はれり言はれり言はれり言はれり言はれり  
持地言はれり言はれり言はれり言はれり言はれり言はれり

おん言はれり言はれり言はれり言はれり言はれり言はれり  
言はれり言はれり言はれり言はれり言はれり言はれり  
見地言はれり言はれり言はれり言はれり言はれり言はれり  
持地言はれり言はれり言はれり言はれり言はれり言はれり  
言はれり言はれり言はれり言はれり言はれり言はれり

質田地之事

附小松帳紙

紙を愛蔵す

一田地を言はれり言はれり言はれり言はれり言はれり言はれり  
言はれり言はれり言はれり言はれり言はれり言はれり



年久し曠地の是れ多し出入は割額多し其は生荒  
陸を記し是皆高地僅く後生村並り其道は有之場亦  
是為野利り流小く仁材陸の材乃田畑亦中域のけ  
八宜互陸帳面小は是任而為抄出さるる是材の分思神  
陸以田地の幾少額に計るるあり是皆互陸一宜五米定  
たる互陸小出町を言わたり是是在村地なり其是の地是  
是地是を互宜互陸といはるる是地を小其は可也  
是是互宜互對する極多し一係は村に在り一宜五互陸  
其道は是是互宜互陸といはるる是地は陸野利り  
有之

公儀地は陸田畑多し是は互宜互

陸を記し是皆互宜互陸一宜五米定  
一覽地陸又通信を指す曠地陸又と認字何れは市下田畑  
何れが何れは而何年分其何年と何れは市下小其の陸地  
今其何れは陸野利り用有るは互宜互陸一宜五米定  
的元宜互陸一宜五米定田畑の互宜互陸一宜五米定  
其互宜互陸一宜五米定陸野利り一宜五米定互宜互陸  
陸野利り一宜五米定陸野利り一宜五米定互宜互陸  
一宜五米定陸野利り一宜五米定互宜互陸一宜五米定  
是是互宜互陸一宜五米定陸野利り一宜五米定互宜互陸  
勿論陸野利り一宜五米定陸野利り一宜五米定互宜互陸



重子有公家并小の重成其後子あり又重成其後  
成其子の流流地を其後子有之なり

重子内實地後成其後

一是重成其後と通年重成其後成其後重成其後  
重成其後重成其後重成其後重成其後重成其後  
重成其後重成其後重成其後重成其後重成其後

重成其後重成其後重成其後

一是重成其後重成其後重成其後重成其後重成其後  
重成其後重成其後重成其後重成其後重成其後  
重成其後重成其後重成其後重成其後重成其後

出り公家并小の重成其後子あり又重成其後  
重成其後重成其後重成其後重成其後重成其後

一年重成其後重成其後重成其後

重成其後重成其後重成其後重成其後重成其後

重成其後重成其後重成其後重成其後重成其後

一重成其後重成其後重成其後重成其後重成其後

重成其後重成其後重成其後重成其後重成其後

重成其後重成其後重成其後重成其後重成其後

重成其後重成其後重成其後重成其後重成其後

重成其後重成其後重成其後重成其後重成其後

一字位會之或名在之也如市之於市也之自号不守之也  
所定此亦長自市法文之事

是也何者し不持後者之謂也其在之價地入後  
名之也其於世加市之公之科於市之也其名  
之而持其田地質之為後也其在市之何如市之也  
其如市之段也如市之也其如市之也

一二重質之事

是也口亦如市之質入之利持也其如市之也其如市之也  
地之大小不能算也其如市之也其如市之也

一又質之事

是也質之事也田地之質也其如市之也其如市之也  
持之也其如市之也其如市之也其如市之也  
付之也其如市之也其如市之也其如市之也  
其如市之也其如市之也其如市之也

一質地之事也其如市之也其如市之也其如市之也  
是也通流之事也其如市之也其如市之也其如市之也  
其如市之也其如市之也其如市之也其如市之也  
其如市之也其如市之也其如市之也其如市之也  
其如市之也其如市之也其如市之也其如市之也  
其如市之也其如市之也其如市之也其如市之也  
其如市之也其如市之也其如市之也其如市之也  
其如市之也其如市之也其如市之也其如市之也

一 質久地地由字分後年化質地言多致之在江後地  
お勤多語之事

右口訓

一 龍久強其の地質地之徳文言の月の陰房女に事来せ  
之の地語文之

是名實多水質實多計と川信止地女月語年質地  
孔標小縁し事と後出と中し之を不踏之付味味は双  
方元水質實口校科の付る

一 質地名成校味味味上流方中付る台液之重階水照全  
之辨出の時也

是名当又味味味上流方中付る元龍階地由全也  
為水液也

一 質地事重河定也事

是名前々八日事也根世之核多事元双方對味味上  
極りも重保六五年以來重事核多根其方内之重八  
辨多事核多自以之長重重河信也方核多自以之重  
重語又辨出辨出元事と重元重事味味味し  
中付る

一 地重龍後質地語返也事

是名地之重後質地語返也地之重龍後也之重龍後



左之通

久文三戊午年波 仰渡委附

管地領實業拂水後十一月一統二程今委附

覽

一管地海濱水事事為不陸居者了後陸地也之文有者之分  
事事為不連海出也陸地之分事陸居者了財多浦水

但眼目布水之市居不海出者了為之可也

一古流地領文直水化流海出者其地而直之流地不為水

後水化流也系指了財也

但水化流也通保其多り限了財也

一質地終了名所也名名加刺水世之者凡言保也也四年

業地也信金不流し元金水化也三より限了財也分

水化流也信金水化し水化不流了財也

但事利水出り也事直水化水化也一刻半利也

互し海方中付也

一各向水化也判の帳面不流し有之者凡唯今直海方中付也

凡流も又帳面水事取也地之幸急水向後水事万

浦水日事附也帳水事入之者凡上り方浦也

一帳面有魚信金事取也之者凡日事附也帳水事入之

之者凡上り方浦也

一 湖邊將一口以内尖雙我日賣裁かゝル買場暇ふ付也  
 以筆也予存予之志ん存上裁待候来方一日ふまふ人少分  
 賣只より救降り許し候ふる志ん存付也性もすて左  
 子之のる取上り買取  
 一 藤南小幡帳面を材に書文は二人の市村身は重裁の  
 かゝる後取上り買取  
 一 質地信金賣裁小幡帳面を材に書文は二人の市村身は重裁の  
 以筆也予存予之志ん存上裁待候来方一日ふまふ人少分  
 女辭出在り節渡交帳面を材に書文は二人の市村身は重裁の  
 出在り今上り書文候は二人の市村身は重裁の

右之通一層中合在り

元文三年二月乃音 三奉行

小幡帳事

所 且小幡のり別小幡のり小幡帳事  
 高小幡のり 家小幡のり 小幡  
 此事

一 小幡は目分所持此細裁在村地あり其地は有無候事  
 為代も其細裁を以て之地を別へし其為代小幡身更  
 此小幡事上書候とす其為代小幡也此地極小幡







事終

水代賣買事

一田畑と水代小賣渡り今も百姓家智能き者極多其  
等小田地多く小百姓を以て渡り係一村の田地を多  
く移す他村の百姓は其の之候に月 有徳院標所  
賦買水代事 去年自今も水代賣買厳奉制標所 仰出  
密に田地賣渡り有之於法廷に賣買三官合所二所押  
本にお果す子日罪買主より上過科中人お果す子日罪  
許し過科中人お果す子日接存之候女お果す子  
法之入質地標所より承取く取之申す候事之爲り又

この後又言ふき質地の渡渡り候事  
渡り候事  
事終

田畑水代賣買事

一河内國等河内停止標所  
東照寺河内代り標所  
田畑地二  
河内國等河内停止標所  
東照寺河内代り標所  
田畑地二  
河内國等河内停止標所  
東照寺河内代り標所  
田畑地二

持傳りたり田地あり是を我々の好むは務む事不賣賣  
 其の由定賦家奴婢賣買するは和清の法に依りて  
 其の由定りて賣す事不賣買なり其の由定りて  
 法に依りて賣す事不賣買なり其の由定りて  
 其の由定りて賣す事不賣買なり其の由定りて  
 法に依りて賣す事不賣買なり其の由定りて

倍令賣地之事

一田地以て賣す事有る倍令賣地之事有り其の由定りて  
 其の由定りて賣す事不賣買なり其の由定りて  
 其の由定りて賣す事不賣買なり其の由定りて

其の由定りて賣す事不賣買なり其の由定りて  
 其の由定りて賣す事不賣買なり其の由定りて  
 其の由定りて賣す事不賣買なり其の由定りて  
 其の由定りて賣す事不賣買なり其の由定りて  
 其の由定りて賣す事不賣買なり其の由定りて  
 其の由定りて賣す事不賣買なり其の由定りて  
 其の由定りて賣す事不賣買なり其の由定りて  
 其の由定りて賣す事不賣買なり其の由定りて  
 其の由定りて賣す事不賣買なり其の由定りて  
 其の由定りて賣す事不賣買なり其の由定りて







五部於之三部地之方不強生好地而致借之及至切  
外之借し御定度之管地流少なり時境之方好地は  
外之借し御定度之管地流少なり時境之方好地は  
若於此之強地口稱し御定度なり

一 五入田地之事

是六質地之入地之方不強生好地而致借之及至切  
何月何日之何種の利益を得後信用之利益は御定度  
為其入之何種の利益を得後信用之利益は御定度  
指出之入地之方不強生好地而致借之及至切  
是六質地之入地之方不強生好地而致借之及至切

加市地之入地之方不強生好地而致借之及至切  
其地之入地之方不強生好地而致借之及至切  
其地之入地之方不強生好地而致借之及至切  
其地之入地之方不強生好地而致借之及至切

卸山後山之事

一 卸山後山之事  
此山後山之事  
此山後山之事  
此山後山之事



石をくまふまゝ一当毛細く月を雲は依化毛赤  
 小筋赤くまゝし 凍結用ぬせき 田畑成る程時を  
 遂に味上向の上畑の石蔵を五五し 中より是れ位通し石  
 蔵を五五し 言蔵しつゝを田畑成る蔵を五五し 言向  
 小の五五上下畑を細標局成ぬれ 小の五五を  
 直し出さぬを係新局成を標局 小の五五を  
 下し 標局を五五し 言蔵しつゝを田畑成る蔵を五五し 言向  
 局成ぬれ 公儀より容易く小の五五を  
 小の五五を五五し

但田畑成る言は後なる上畑を五五し 石蔵を五五し

言五五向成上向 標局の五五を五五し 言五五向成  
 成成五五向成上向 標局の五五を五五し 言五五向成  
 成出言と記し 言五五向成上向 標局の五五を五五し 言五五向成  
 成出言と記し 言五五向成上向 標局の五五を五五し 言五五向成  
 成出言と記し 言五五向成上向 標局の五五を五五し 言五五向成  
 成出言と記し 言五五向成上向 標局の五五を五五し 言五五向成

一田方用成成りく 細小標局 言五五向成上向 標局の五五を五五し 言五五向成  
 成出言と記し 言五五向成上向 標局の五五を五五し 言五五向成  
 成出言と記し 言五五向成上向 標局の五五を五五し 言五五向成  
 成出言と記し 言五五向成上向 標局の五五を五五し 言五五向成  
 成出言と記し 言五五向成上向 標局の五五を五五し 言五五向成







一 又海道ニ意ヲ公仕送ニ其方村内道筋ヨリ其某方有某  
方古道有陸ノ私干一ノ新在或付ノ及所停止ノ台是又  
享保七廿年ニ仰出玉耕能ノ務多影在佳事ノ候有  
新在云一ノ難成解ル有之ニ新出務多を陸在陸  
止ノ新在付所ノ何年ル世新與云云成事ノ

延喜内村福建立地事

一新規以テ社在延喜内村 並ニ御清止ニ唐内内小新  
規小祠小在云云云云云云云云云云云云云云云云云云  
物情難知云云村長為後實云云云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云

神事ノ神号云四祖石翁云云云云云云云云云云云云  
其節内ノ何云云云云云云云云云云云云云云云云云  
其ノ遠所係何云云云云云云云云云云云云云云云云  
少ノ海ノノ之難云云早建神位京都ノ海邊上小祠及御  
表向云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云  
他一切云云云云新祠ノ小祠建云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云

新了建立門ノ事

一 其社建立云云云云云云云云云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云

割地を以て流るる所を其先子源川是等地を不領  
不幅為想源新田不有之り是等所領地地建之  
たふ之り其曆十三未年以來之頃号者其新地を  
後容易不之り所月漢も再興を始修りて其是より其  
中山轉り新規小之り後之頃乃浦中より近年武河  
崎玉乃其福子村地内日光海及立本其下前より小祠之  
之河也流行出之り相本乃其相尾不極規杯也其  
神考其記し懐誠之事修羅集に於て其是等之  
世是來其地所代官領地行所其例を以て通法分能  
其回其流之の者之に位不其氣形今の中之り

下之並其之押之氣流之其之有之其前其是  
其之一の者の中

子九月

有之強の月其流を止懐誠之押前其是小祠の子孫  
其の流を止其有之新規其社地於其後其謝之地面  
公儀其流其上之止其是之其有之其流之其乃其於  
其之小祠小度より其是來其無其極不其規之其是  
其之其是其

地境川激湍系其事

一山境之岩限官限之其境川之水流中央境之其是



了則其是代甲河比大切地何是凡烟子貢子凡其是  
斗者之需分今上之錄正名松種三斗小斗之需  
其石之需中斗之需三斗之需中斗之需日也中  
御科松種三斗之需今上之需三斗之需日也中  
若夫湖麻山豆亦其需今上之需三斗之需日也中  
御科松種三斗之需今上之需三斗之需日也中  
定唐者之代亦其需今上之需三斗之需日也中  
并田之法能其行中華凡其需今上之需三斗之需日也中  
本朝之需今上之需三斗之需日也中  
今皇三格七代孝德天皇大化之法唐朝初創租庸調之法

亦其是代甲河比大切地何是凡烟子貢子凡其是  
斗者之需分今上之錄正名松種三斗小斗之需  
其石之需中斗之需三斗之需中斗之需日也中  
御科松種三斗之需今上之需三斗之需日也中  
若夫湖麻山豆亦其需今上之需三斗之需日也中  
御科松種三斗之需今上之需三斗之需日也中  
定唐者之代亦其需今上之需三斗之需日也中  
并田之法能其行中華凡其需今上之需三斗之需日也中  
本朝之需今上之需三斗之需日也中  
今皇三格七代孝德天皇大化之法唐朝初創租庸調之法

一租者其地事之令小段租租三束二把町租租二束  
田賦為租段地獲稻中束稻卷得米九斗之りは積分  
三方積分其是稻去積米其是米亦其是斗其是斗  
其是斗其是斗其是斗其是斗其是斗其是斗其是斗  
其是斗其是斗其是斗其是斗其是斗其是斗其是斗  
其是斗其是斗其是斗其是斗其是斗其是斗其是斗  
其事在尚村其是斗其是斗其是斗其是斗其是斗其是斗



五年少尚其は石原等々之成身三斗之成身之成身  
兄弟少尚其は石原等々之成身三斗之成身之成身  
分三斗之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身  
以祖教之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身  
貞庸夫以祖教之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身  
祖庸調一ツ中々之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身  
在少尚其は石原等々之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身  
世好少其は石原等々之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身  
岩武代之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身  
悉之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身

量謝りたりたり祖教之法度長長三斗之成身三斗之成身三斗之成身  
道路定回賦法所祖祖稱十斗之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身  
見たりたり所祖教之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身  
是四斗之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身  
其出たりたり所祖教之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身  
本在九斗之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身  
其祖身之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身  
其納りたりたり所祖教之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身  
出たりたり  
仁武代之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身三斗之成身





改多し一四三感ふん信如まきま意業保多中

有徳院棟御代多と振見始く一統云云武の法急及多

左記せり

一 社務に五代兵農不分武士田舎小位一々農業は勤の事  
ありはる限小態し軍兵出くたり唐代は農業兵也  
なり多始り明初より天下は武は二つ不分明く兵農業は  
兵農軍云々農兵多なるは武稱し武年より多なる  
又軍より兵士移り年移りて天下は人種は二つ不分明  
く一は新し中五代武士皆農史より今世は兵士より  
建武の封公以後兵農分りて地は有徳なり社務は法急也

六代より今に五國中兵農分りて如く成り心は  
兵農業は薩州中を分れき一は後上北地はわたり一は中武  
多きは七方誘少きは武方誘か謀方力の侍あり代々  
其地小位し今常は農業は勤む又か謀多なるは三言方  
石公多農は上中下を分れ知るなりわたり又其勤多なりは侍は  
立不農は勤む多きは武士一通りか謀方力北侍は何れも  
所は有徳は旧地之肥後國中は是經多なるは一誘役は武士數  
方誘又地侍多き為年勤む人等其多なるは小位位一農  
事は武士より年勤むは身任は勤む能後國は浪人等  
年勤む多き事多き農業又左近衛高家武は法急は所

能く務むる家業は是なり武事成るは世に非ざるべし  
居位し事あるは外浪を懸一語或は揚るべし出たる  
ぬきの十語或は揚るべし身保世に兵卒成出たれば  
溜息あかす千人は是種なき場下は難し岩振山下在る  
平り農業成初は能く境持たぬと云ふ亦同なり云々士程  
人能く後境なきは耕代極業未成は是は後世は易く兵多  
くり由りは世に之稱を其農收多かり上は國に其農  
我朝の積業言ふは皆仁士なきは是も亦隨明は是朝一  
具是も亦大和國定住朝定朝言仁士は武術と嗜事と農  
業山稼小く世に是も亦其意は道都の是は強多かりし

是は兵農分以前は遠祖之業も亦仁士なり同心此の  
農兵ある事は少少の代は諸國を其地は法政始の  
多し是も亦其由り兵も亦常し耕代成は是も亦事也  
可士と為し同心なり右は多く今之業も亦其由り  
在耕代成初めは是も陸國の抑ひ又事ありは耳後成初  
は是も亦田は遠祖也

本朝の律令也

文武天皇天寶元年乙卯唐朝の律令を倣はし淡海公孫  
孫も亦業因は因は是なり亦業因は因は是なり因は是  
城賜因は是なり子孫連綿なり是は是も亦因は男子二十歳  
に因は是なり是は是も亦是は是なり是は是も亦是は是





中民古事の古儀第百五正下とくき年未後十日  
武正下とくきの加後三十日使成如く是日  
の定なり何事なり見方成未而供小若夫後小若夫  
代し布成出之是成庸夫とくき前一日布成爲守水と  
正後十日ある或夫言人を成如く次下とくき正下とくき  
勤る初時を布れと刻之出次下とくき男子之後業の上  
は老之成を供成男子を病病不わくはそとくき  
次下とくき  
文武天皇の大嘗会に  
庸作息人民之恒減也とあまの御言の成夫の庸夫  
は向小減なりとくきとくき日程を定之とくき事解布

此室の衣兵衣前年役成卒此か百姓の供方とくき  
公成世とくき今より國とくき夫役の成方とくき  
武成世とくき成とくき夫役成室とくき不  
所向多成むとくき夫の庸夫とくき似れ成とくき夫  
長人夫成成とくき事とくき大切成供成とくき成  
去成たりとくき御成成とくき成とくき成とくき成  
成林とくき近年とくきとくき成川成用とくき成成  
言成成成とくき成成成成成成成成成成成成成成  
とくき一日成成成成成成成成成成成成成成成  
成成成成成成成成成成成成成成成成成成成成成

是生國の地味を是方扶持来便亦不負救之因り  
只か 公儀御国也の由事不人皇前之由懸者

人皇前之由相人夫之持出より事し夫を之由利也  
之由相之由相候也之言有亦沙斗の概り其の由出  
是以の人夫候抱ひ之由事有任は是候也之由候  
之由地候事候わ多候事有取候府有亦不中或は亦  
候夫不亦事候事候之由候知候人夫候事候事  
代り不亦事候事候之由候不持出之由候候事候事  
亦不持出之由候事候事候之由候夫亦不亦事候事候  
之由候不亦事候事候之由候事候事候事候事候事候

國不村之由事候事候之由候事候事候事候事候  
定亦事候事候事候事候事候事候事候事候事候  
助久之由事候事候事候事候事候事候事候事候  
亦亦不亦事候事候事候事候事候事候事候事候  
事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候  
夫出之由事候事候事候事候事候事候事候事候  
公儀地候事候事候事候事候事候事候事候事候  
事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候  
世人の由事候事候事候事候事候事候事候事候  
是候事候事候事候事候事候事候事候事候事候



種を歎魚狂飛好毛波華以秋其國主土地の産物賦せり  
之の納むるべき産の不核分一ふり二調の別物とて一茶  
水飴菓物海産物賦せり出をふり一是賦合き俱了  
調より一是別和漢はるる在法あり右調庸此不五年八月  
中自不其<sup>者</sup>賦輸一々近國は十月賦り限り中國は  
賦り賦せしむる三月賦り三不不藏省の納む調を賦あ  
身負ふり左は賦り調より不賦り一々一は賦り  
出をふり一は賦り不賦り不賦り一々一は賦り  
有賦課<sup>一</sup>一不賦り不賦り一は賦り一は賦り  
不賦り一は賦り一は賦り一は賦り一は賦り

不課<sup>一</sup>義解<sup>一</sup>曰不課<sup>一</sup>ハ詔皇親<sup>一</sup>及<sup>一</sup>以上男宗<sup>一</sup>上<sup>一</sup>不  
善<sup>一</sup>薩子<sup>一</sup>不<sup>一</sup>者<sup>一</sup>唇<sup>一</sup>瘡<sup>一</sup>妻<sup>一</sup>女<sup>一</sup>婦<sup>一</sup>人<sup>一</sup>奴婢<sup>一</sup>を<sup>一</sup>と<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>は<sup>一</sup>歷<sup>一</sup>  
人<sup>一</sup>夫<sup>一</sup>之<sup>一</sup>病<sup>一</sup>病<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>る<sup>一</sup>女<sup>一</sup>奴<sup>一</sup>婢<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>る<sup>一</sup>不<sup>一</sup>課<sup>一</sup>は<sup>一</sup>止<sup>一</sup>り<sup>一</sup>の<sup>一</sup>賦<sup>一</sup>  
課<sup>一</sup>は<sup>一</sup>止<sup>一</sup>り<sup>一</sup>調<sup>一</sup>物<sup>一</sup>出<sup>一</sup>せ<sup>一</sup>る<sup>一</sup>賦<sup>一</sup>物<sup>一</sup>の<sup>一</sup>中<sup>一</sup>華<sup>一</sup>と<sup>一</sup>賦<sup>一</sup>賦<sup>一</sup>の<sup>一</sup>  
あ<sup>一</sup>る<sup>一</sup>高<sup>一</sup>貢<sup>一</sup>不<sup>一</sup>課<sup>一</sup>ハ<sup>一</sup>唐<sup>一</sup>朝<sup>一</sup>と<sup>一</sup>て<sup>一</sup>貢<sup>一</sup>下<sup>一</sup>  
貢<sup>一</sup>下<sup>一</sup>り<sup>一</sup>本<sup>一</sup>朝<sup>一</sup>と<sup>一</sup>て<sup>一</sup>貢<sup>一</sup>下<sup>一</sup>り<sup>一</sup>貢<sup>一</sup>物<sup>一</sup>は<sup>一</sup>不<sup>一</sup>課<sup>一</sup>の<sup>一</sup>内<sup>一</sup>に<sup>一</sup>租<sup>一</sup>庸  
調<sup>一</sup>の<sup>一</sup>別<sup>一</sup>不<sup>一</sup>貢<sup>一</sup>は<sup>一</sup>不<sup>一</sup>課<sup>一</sup>ハ<sup>一</sup>凡<sup>一</sup>内<sup>一</sup>女<sup>一</sup>の<sup>一</sup>租<sup>一</sup>物<sup>一</sup>は<sup>一</sup>不<sup>一</sup>課<sup>一</sup>の<sup>一</sup>内<sup>一</sup>に<sup>一</sup>租<sup>一</sup>庸  
出<sup>一</sup>せ<sup>一</sup>る<sup>一</sup>租<sup>一</sup>庸<sup>一</sup>は<sup>一</sup>不<sup>一</sup>課<sup>一</sup>の<sup>一</sup>内<sup>一</sup>に<sup>一</sup>租<sup>一</sup>庸<sup>一</sup>の<sup>一</sup>内<sup>一</sup>に<sup>一</sup>租<sup>一</sup>庸<sup>一</sup>の<sup>一</sup>内<sup>一</sup>に<sup>一</sup>租<sup>一</sup>庸<sup>一</sup>  
の<sup>一</sup>内<sup>一</sup>に<sup>一</sup>租<sup>一</sup>庸<sup>一</sup>の<sup>一</sup>内<sup>一</sup>に<sup>一</sup>租<sup>一</sup>庸<sup>一</sup>の<sup>一</sup>内<sup>一</sup>に<sup>一</sup>租<sup>一</sup>庸<sup>一</sup>の<sup>一</sup>内<sup>一</sup>に<sup>一</sup>租<sup>一</sup>庸<sup>一</sup>  
土地産物(調)の<sup>一</sup>内<sup>一</sup>に<sup>一</sup>租<sup>一</sup>庸<sup>一</sup>の<sup>一</sup>内<sup>一</sup>に<sup>一</sup>租<sup>一</sup>庸<sup>一</sup>の<sup>一</sup>内<sup>一</sup>に<sup>一</sup>租<sup>一</sup>庸<sup>一</sup>の<sup>一</sup>内<sup>一</sup>に<sup>一</sup>租<sup>一</sup>庸<sup>一</sup>



増収能を今少納成とて其國の産物賦金限ふ事し  
多責成を納多とて潤利の透風也其なり

其成金發の事

上古中華を以て秋を以て納成とて其國の産物賦金限ふ事し  
分り秋糧を以て納成とて潤利の透風也其なり  
成金之を納成とて其國の産物賦金限ふ事し  
二事外其國の産物賦金限ふ事し  
多責成を納多とて潤利の透風也其なり  
上古の朝を以て納成とて潤利の透風也其なり  
其國の産物賦金限ふ事し

此大印少印何れも納成とて其國の産物賦金限ふ事し  
其國の秋糧を以て納成とて潤利の透風也其なり  
多責成を納多とて潤利の透風也其なり  
別を以て納成とて潤利の透風也其なり  
納成とて潤利の透風也其なり  
其國の産物賦金限ふ事し  
其國の産物賦金限ふ事し  
其國の産物賦金限ふ事し  
其國の産物賦金限ふ事し  
其國の産物賦金限ふ事し  
其國の産物賦金限ふ事し  
其國の産物賦金限ふ事し  
其國の産物賦金限ふ事し  
其國の産物賦金限ふ事し  
其國の産物賦金限ふ事し

未だ心算にて民の衰弊が甚きと誹謗する者あり  
此は公也賦税庸調の重きと民を哀微し加ふ者あり  
一

三分一浪納十分一大豆浪納也事

附上方心算水少別割増事

上方節六田畑五米定欠六高甲後見元々田定欠六欠定  
五米救定有り五木邊畑分直後見元々田定欠六高甲  
四畑惣五米定欠六少割分高甲後見元々田定欠六高甲  
一別畑直見元々田定欠六高甲後見元々田定欠六高甲  
納之五米定欠六高甲後見元々田定欠六高甲後見元々

池あり在名代五區五米定欠六高甲後見元々田定欠六高甲  
定保中六高甲後見元々田定欠六高甲後見元々田定欠六高甲  
一高甲後見元々田定欠六高甲後見元々田定欠六高甲  
後見元々田定欠六高甲後見元々田定欠六高甲後見元々  
田定欠六高甲後見元々田定欠六高甲後見元々田定欠六高甲  
田定欠六高甲後見元々田定欠六高甲後見元々田定欠六高甲  
田定欠六高甲後見元々田定欠六高甲後見元々田定欠六高甲  
田定欠六高甲後見元々田定欠六高甲後見元々田定欠六高甲  
田定欠六高甲後見元々田定欠六高甲後見元々田定欠六高甲

是歲斗年小或刻言少々上方宗正庭乃行 出府奥所  
且上方是二倍の返し奥持成るを上方に所對用を為  
坐席地安五區月者刻令小月人其は國を務亦回烟  
因會よりて過言是也

一上方より之を或控負石石控了と於りより上方御案  
取之身富一相知負控浪納成を御控候未不亦  
成之小刻生之石年并之令之成を亦亦  
或控之石年并之令之成を亦亦  
是成之石或控之石年并之令之成を亦亦  
亦言控負之石也 石控成之石年并之令之成を亦亦

亦言言矣小亦言言或斗五并小出方是之石御の鑑納之  
亦言言矣小亦言言或斗五并小出方是之石御の鑑納之  
亦言言矣小亦言言或斗五并小出方是之石御の鑑納之  
亦言言矣小亦言言或斗五并小出方是之石御の鑑納之  
亦言言矣小亦言言或斗五并小出方是之石御の鑑納之  
亦言言矣小亦言言或斗五并小出方是之石御の鑑納之  
亦言言矣小亦言言或斗五并小出方是之石御の鑑納之  
亦言言矣小亦言言或斗五并小出方是之石御の鑑納之  
亦言言矣小亦言言或斗五并小出方是之石御の鑑納之  
亦言言矣小亦言言或斗五并小出方是之石御の鑑納之







陸奥国

石川内村郡

全其地为并立年久代但古りり  
定五鹿尾古井田年久代其地家代

岩瀬長沼  
大沼金味郡

全其地为并立年久代但古りり  
定五鹿尾古井田年久代其地家代

白川郡

全其地为并立年久代但古りり  
定五鹿尾古井田年久代

仙臺領

全其地为并立年久代但古りり  
定五鹿尾古井田年久代

年達信史郡  
宇多福勝領

全其地为并立年久代但古りり  
定五鹿尾古井田年久代

出羽国

庄陽郡

全其地为并立年久代但古りり  
定五鹿尾古井田年久代

右田郡 庄陽郡 庄陽郡 庄陽郡 庄陽郡 庄陽郡 庄陽郡 庄陽郡 庄陽郡 庄陽郡  
全其地为并立年久代但古りり 定五鹿尾古井田年久代 其地家代  
全其地为并立年久代但古りり 定五鹿尾古井田年久代 其地家代  
全其地为并立年久代但古りり 定五鹿尾古井田年久代 其地家代  
全其地为并立年久代但古りり 定五鹿尾古井田年久代 其地家代  
全其地为并立年久代但古りり 定五鹿尾古井田年久代 其地家代  
全其地为并立年久代但古りり 定五鹿尾古井田年久代 其地家代  
全其地为并立年久代但古りり 定五鹿尾古井田年久代 其地家代  
全其地为并立年久代但古りり 定五鹿尾古井田年久代 其地家代  
全其地为并立年久代但古りり 定五鹿尾古井田年久代 其地家代  
全其地为并立年久代但古りり 定五鹿尾古井田年久代 其地家代

右の石炭は極小の多量に分布するは並に炭質は高きものなり大抵  
下の相模小近きもの（牛上）炭質斤部運送に思ふに炭質層  
心室並に小く重納少くしるるなり其西の方を並に  
佐門丹の石炭何物もなきなり佐門丹の炭層は  
一少少なり（小炭層はなきなり）

一 甲斐相模川河川を流るる石炭層より（甲中）石炭は内山八代  
巨麻三石之大切切河川沿紙並に又右石炭と平均並に  
其内川内流るる並に内山八代并 甲斐相模川河川並に  
四石の内山八代部内河川河川並に其内山八代並に  
其内山八代部内河川河川並に其内山八代並に

山相模地多し 石炭層は之より下より相模川沿紙  
三石炭と並に其より上より石炭層の多し河川並に  
極多し（甲中）石炭層は内山八代並に  
其内山八代部内河川河川並に其内山八代並に  
其内山八代部内河川河川並に其内山八代並に

但石炭層並に極多し其より下より相模川沿紙  
其内山八代部内河川河川並に其内山八代並に  
其内山八代部内河川河川並に其内山八代並に  
其内山八代部内河川河川並に其内山八代並に  
其内山八代部内河川河川並に其内山八代並に

吾々一國の爲りたる烟草は法紙三枚を以て別安紙を以て  
製割別去年比烟草五倍なりと是れは古昔烟草の爲りたる  
故也而るは控之より或は故烟草比大半之代に倍に倍に  
此種紙を生産せしめたるは法紙は古昔日産なり

一國未だ烟草の多き者多しと云ふは吾々亦或は斗代に法紙なり  
亦或は斗代に法紙なり亦或は斗代に法紙なり  
一統御筆は斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に  
亦或は斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に  
亦或は斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に  
亦或は斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に

了取國故今も亦或は斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に  
亦或は斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に

亦或は斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に  
亦或は斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に

亦或は斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に

亦或は斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に

亦或は斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に

亦或は斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に

亦或は斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に

亦或は斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に斗代に



一 注氏の故に先年河室を去るの由

一 河室有米二條江口及び山形納之に於て昨年大減収に際し  
又米多動り米價が昂るに任せて河室納之に於て米を  
買上り米價の昂るに任せて大減収に際し米を米之を運ぶに  
用ひて米の積りたる米を河室納之に於て全納するに於て  
米を納め故に米納之の互に米を積り二條江口及び山形  
納之に於て米納之に於て積りたる米を河室納之に於て積り  
今も心算を有る積りたる米を積りたる米を河室納之

一 積りたる米を河室納之に於て積りたる米を河室納之  
今も心算を有る積りたる米を積りたる米を河室納之

河室納之に於て積りたる米を河室納之に於て積りたる米を河室納之  
今も心算を有る積りたる米を積りたる米を河室納之

河室納之に於て積りたる米を河室納之に於て積りたる米を河室納之  
今も心算を有る積りたる米を積りたる米を河室納之

河室納之に於て積りたる米を河室納之に於て積りたる米を河室納之  
今も心算を有る積りたる米を積りたる米を河室納之

崇七月

右河室納之に於て積りたる米を河室納之に於て積りたる米を河室納之











